

看護学部

看護学部は、「教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により、豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を持ち、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をととして、社会に貢献できる人人を育成する」ことを教育研究上の目的としています。

本学では、共通教育科目（全学部）における教養教育と看護学部の専門科目を通じて幅広い視点から学び、教養と適切な判断力・適応力に加え、質の高い看護の専門性を身につける教育を展開していきます。

こうした教育により、「豊かな人間性を培い、幅広い教養と看護に必要な知識と技術と態度を修得するとともに、生涯にわたり自己の成長と看護の質の向上のために研鑽する力を養い、変化に対応する力を持ち、地域と国際社会の人々の健康及び福祉の充実と向上に貢献しうる看護専門職者」を育成します。

1. 共通教育

履修科目選択の際に分かりやすいように、共通教育科目をいくつかの科目群に細分化しました。これらの科目群は、以下に示すように、内容的には①「建学の精神」、②「教養」、③「学習基礎」、④「外国語」、⑤「学外活動・スポーツ」の5つに区分することができます。

- ①「建学の精神」と②「教養」：キリスト教思想を建学の精神として学び、人間が培ってきた文化の概要を学んでいきます。
- ③「学習基礎」：専門的な学習に必要な方法の基礎を学びます。
- ④「外国語」：外国語として英語を基礎から学びます。実用的な共通教育教養として位置づけています。
- ⑤「学外活動・スポーツ」：ボランティア活動や海外研修、短期留学等に参加した際に単位認定される科目です。「健康科学」は養護教諭を取得する場合は必修科目です。

2. 専門教育

1) 教育研究上の目的

看護学部は、地域の健康ニーズに応え、本学の目的および使命を果たすために、建学の精神に基づき、「教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を修め、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をととして社会に貢献できる人人を育成する」（学則第4条）ことを目的とする。

2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- ① 建学の精神を理解し、人間の尊厳と人権を尊重し、看護専門職者に相応しい感性と倫理観をもって、他者に共感することができる。（共感力）
- ② 幅広い教養を身につけ、人間関係を創ることができる。（人間関係力）
- ③ 看護専門職者として成長のために主体的な学びができ、新たな課題に取り組むことができる。（学習推進力）
- ④ 看護学を俯瞰的に捉え、社会の変化に対応して科学的に探究できる。（科学的探究心）
- ⑤ 看護及び保健・医療・福祉など多職種連携における看護の役割を理解し、良質な看護実践に向けリーダーシップを発揮できる。（リーダーシップ）

- ⑥ 人々の発達・健康・生活のニーズに応じた看護支援や根拠に基づくケアの質と安全を考慮した良質の看護実践ができる。(看護実践力)
- ⑦ 地域の健康ニーズを理解し、地域の人々の健康や福祉の充実と向上に貢献できる。(地域包括支援実践力)
- ⑧ 多文化理解と災害支援の重要性を理解し、国際・災害支援に貢献できる。(国際・災害支援実践力)

3) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

- (1) 人間尊重の精神に基づく人間観や看護観を育てるとともに、看護の職業倫理に関する基礎的な知識を修得する科目を配置する。
- (2) 人間と社会を幅広く理解するとともに、コミュニケーション能力を修得する科目を配置する。
- (3) 問題を発見し、考え抜くためのクリティカルシンキングを修得する科目を配置する。
- (4) 看護学研究に関する基本的な方法論の修得のもとに、研究プロセスで得た知識や技能を総合的に活用して問題を解決できる能力を修得する科目を配置する。
- (5) チーム医療の中での看護職と多職種連携の役割を理解し、リーダーシップを発揮して看護職の役割を果たす能力、態度を修得する科目を配置する。
- (6) 人間を生物学的、心理・社会的側面から理解し、健康や障害に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度と、看護判断力、問題解決能力を修得する科目を配置する。
 - ① 看護の概念および人間を生物学的、心理・社会的側面から理解する基礎的な科目を配置する。
 - ② 看護実践のための基本的な知識・技術・態度を身につける科目を配置する。
 - ③ 専門領域別に健康や障害の状態に応じた看護実践のための知識・技能・態度を身につける科目を配置する。
- (7) 地域の包括ケアの必要性を理解し、地域における看護に関する基礎的な知識と実践する能力を修得する科目を配置する。
- (8) 文化の違いを理解し、互いに尊重する態度を育て、国際化する社会における看護に関する基礎的な知識を修得する科目を配置する。
- (9) 災害、減災に関わる看護の役割を理解し、災害支援活動に必要な実践力を修得する科目を配置する。

4) アドミッション・ポリシー (入学受入れの方針)

- ① 本学の建学の精神に賛同し、社会の健康ニーズに貢献しようとする人
- ② 看護学部看護学科の教育目標に魅力を感じる人
- ③ 学びの文化・ケアの文化・共生の文化の創生の目標に向かっていく意欲のある人
- ④ 「よく考える」ことを通して、自分を成長させることに努力を惜しまない人
- ⑤ 高等学校の教育課程を幅広く修得している人
- ⑥ 高等学校までの履修内容のうち、看護学の基礎となる科目を身につけている人
- ⑦ 知識や情報をもとに、論理的に考え、その考えを説明できる人
- ⑧ 他者と協力しながら、課題を達成する能力を身につけている人

5) アセスメント・ポリシー (学習成果の指標)

清泉女学院大学では、学習成果を可視化し、大学の教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に資するため、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関（大学全体）レベル、教育プログラム（学科）レベル、科目レベルの3段階で学習の成果を適切に評価するた

めの基本方針であるアセスメント・ポリシーを定める。

1. 機関（大学）レベル

大学全体の学修成果は、入試実施状況や出願書類から、入学後の学修状況やGPA、学生生活の満足度、学籍動向、さらには卒業論文の評価や学位授与、免許・資格取得状況、卒業後の進路状況やアンケートまで、時系列的に学修の成果を測定・評価する。

2. 教育プログラム（学部・学科）レベル

学部・学科における学修成果は、各学部・学科の入試実施状況や出願書類、入学後の学修状況やGPA、学生生活の満足度、学籍動向、卒業論文の評価や学位授与、免許・資格取得状況、卒業後の進路状況やアンケート等の共通の評価指標と、各学部・学科が設定する「学修成果」に対応した評価指標を用いて測定・評価する。

3. 科目レベル

各科目の学修成果は、シラバスの成績評価基準に基づく合格率や成績分布、学生による授業評価アンケート、教員個々のPDCAシート、各種検定試験の結果等から測定・評価する。

各レベルにおけるポリシーごとの評価指標

看護学部 アセスメントポリシー			
	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー
機関（大学）レベル	各種入学試験 面接・志望動機等 調査書等の記載内容 入学者の追跡調査による選抜 方法の検証	単位修得状況 GPA 学籍動向（休学率や退学率等） 学生生活満足度調査	単位修得状況 GPA 学位授与数 卒業率 卒業論文評価シートの平均達成度 ポートフォリオ 免許・資格取得状況 就職・進学率 卒業時進路調査 卒業後アンケート
教育プログラム（学部・学科）レベル	各種入学試験 面接・志望動機等 調査書等の記載内容 入学者の追跡調査による選抜 方法の検証	単位修得状況 GPA 学籍動向（卒業率、退学率、中退率） 学生生活アンケート（活満足）度調査 7つの力のルーブリック 各種検定試験の結果	単位修得状況 GPA 学位授与数 学籍動向（卒業率、退学率、中退率） 免許・資格取得状況 就職・進学率 就職先・進学先 卒業後アンケート 学生生活アンケート 7つの力のルーブリック
科目レベル	各種入学試験 プレイスメントテスト リメディアル教育確認テスト	成績評価基準 成績分布 GPA 授業評価アンケート 各種検定試験の結果 ・PC検定 相互参観・FD活動等による評価	